

秋田県市町村未来づくり協働プログラム

東成瀬村プロジェクト「雪と共生する東成瀬“仙人郷”創造プロジェクト」における 事後評価調査

1 プロジェクトの目的

雪はこれまで、村民の暮らしに大きな影響を及ぼすものとして、主に克雪の対象としてきたが、これからは、克雪に加え、村の中核的な拠点であるジュネス栗駒エリアのスポーツツーリズムの推進による交流人口の拡大、さらには雪の冷熱エネルギーを活用した農産物の栽培や特産品の開発を行うなど、雪を地域資源として最大限活用できる親雪、利雪、克雪の取組を一体的に推進することにより、地域の活性化を図る。

2 プロジェクトの概要

策定年月日	実施期間	東成瀬村総事業費（千円） A	交付金（千円）	県事業・協働事業費（千円） B	総事業費(千円) A + B
H25.5.21	H25～H28	367,821 (423,400)	200,000 (200,000)	250 (2,300)	368,071 (425,700)

※（ ）内は計画値

【プロジェクトを構成する事業】

○東成瀬村実施事業

事業名	総事業費（千円）	うち交付金（千円）	実施年度
ジュネス栗駒エリアのスポーツツーリズムの推進＜親雪＞	147,274	129,000	H25～H28
雪冷熱エネルギーの活用による新たな特産品の開発と販売促進＜利雪＞	95,505	51,000	H25～H28
コミュニティの支え合いによる除排雪体制の確立＜克雪＞	125,042	20,000	H25～H28
計	367,821	200,000	

○県実施事業

事業名	総事業費（千円）	実施年度
雄勝の新商品拡大事業	250	H26
計	250	

○協働実施事業

事業名	総事業費（千円）	実施年度
誘客促進事業	—	H26～H28
革新技术による産地化プロジェクト事業	—	H25～H28
計	—	

※広域的な取り組みのため、事業費は計上していない。

3 プロジェクトの成果指標と達成状況

指標名	基準値 (23 年度)	目標値 (28 年度)	実績値 (28 年度)	達成率
①ジュネス栗駒スキー場の利用者数	24,485 人	30,000 人	27,333 人	91%
②雪冷熱エネルギーを活用した農産物生産品目数	0 品目	5 品目	2 品目	40%
③年間除排雪ボランティア登録者数	85 人	150 人	136 人	91%

4 経済波及効果分析等

東成瀬村「雪と共生する東成瀬“仙人郷”創造プロジェクト」における経済波及効果は、①ハード事業費支出による効果（5 億 1,200 万円）、②ソフト事業費支出による効果（1,300 万円）、③来場者の消費支出による効果（1,700 万円）を合わせると、合計 5 億 4,100 万円であったと推計される。

（単位：百万円）

	直接効果	一次波及効果	二次波及効果	総合効果
①ハード事業費支出による経済波及効果	330	105	77	512
②ソフト事業費支出による経済波及効果	8	3	2	13
③来場者の消費支出による経済波及効果	10	4	2	17
合 計	349	112	81	541

5 その他参考となる事項

○ジュネス栗駒スキー場を利用したスキー合宿等の増加

年度	H26	H27	H28
利用団体数、延べ宿泊数	0 団体 (0 泊)	6 団体 (延べ 338 泊)	11 団体 (延べ 352 泊)

※H28 年度は県内 5 団体・県外 6 団体（全日本スキー連盟、石川県・富山県スキー連盟、大学 2、一関市スポ少）

○全日本スキー選手権大会、国際スキー連盟公認大会の開催（スノーボード競技種目）

H28	【SBX】第 23 回全日本スキー選手権大会 スノーボードクロス競技 【SBX】FIS SnowboardCross 2017 ジュネス栗駒 CUP
H29	【SBX】第 24 回全日本スキー選手権大会 スノーボードクロス競技 【SBX】FIS SnowboardCross 2018 ジュネス栗駒 CUP 【PGS】第 24 回全日本スキー選手権大会 パラレルジャイアントスラローム競技 【PGS】FIS SnowboardPGS 2018 ジュネス栗駒 CUP 【GS/SL】2018 全日本ジュニアスキー選手権大会 ジャイアントスラローム・スラローム競技

※【SBX】スノーボードクロス、【PGS】パラレルジャイアントスラローム、
【GS/SL】ジャイアントスラローム・スラローム

6 民間アドバイザーの意見

(民間アドバイザー：NPO法人あきた地域資源ネットワーク 鑑 啓記 氏)

(1) ジュネス栗駒スキー場のターゲット及びコース整備のコンセプトについて

将来のスキー場利用者増に向けた、子どもを対象としたキッズパークの整備、県内の他のスキー場との差別化を図るためのスノーボードコースの設定や全国規模の大会誘致については、ターゲットの絞り込みという視点から評価できる。

(2) 誘客促進のためのPR、売り込みについて

SAJ(全日本スキー連盟)と連携が取れており、全日本選手権大会の誘致に成功したことは評価できる。2018年に平昌、その次に北京と東アジアで連続して冬季オリンピックが続くことから、練習場所の提供、またそれに伴うスキー・スノーボード人口の拡大などを踏まえた取り組みを進める必要がある。

一方で、トップ選手を対象にしたゲレンデづくりに特化してしまうと、一般客が利用できなくなり底辺の広がりがなくなってしまうため、バランスを考え、一般客にも配慮する必要がある。

(3) 住民の巻き込みと理解促進について

スキー客の増加は、宿泊施設や各種サービス業にも影響が及ぶので、行政と関係者だけで進めるのではなく、地元住民の理解を得て、住民を巻き込む努力を続ける必要がある。

また、国際競技で高い成果を出せる選手が地元から生まれると周囲や外からの評価も高まり、ジュネス栗駒スキー場のネームバリューも浸透していくことから、選手育成にも力を入れる必要がある。

(4) 雪貯蔵・冷蔵施設、雪室施設の必要性について

多雪地帯の雪の利活用は申し分ない視点であり、各地で成功例も出ている。成功例を参考に、より村に合った形の取り組みを進めていけば、効果も期待でき地元の理解も得られる。ゆき未来づくり研究会構成員と意見交換しながら、一部の方だけの施設にならないようにしてもらいたい。

また、まだ年間を通しての雪の貯蔵に成功していないようなので、年間を通して雪が残るよう工夫していただきたい。利雪事業に取り組む中で、農産物への病気の問題など、まだソフト面での取り組みが初期段階であり、今後もどのようなものがこの村にとって良い効果となってくるのか研究や調査を続けてほしい。

(5) 観光について

親雪、利雪分野の両方の面で、マーケティング担当職員の配置が必要である。雪室を特産品化や新たな村のイメージづくりに繋げていくことを考えてもらいたい。

また、東成瀬村商工会青年部などエネルギーをたくさん持った若者をいろんな形で事業に取り込むことでより良い効果が出てくる。将来、リーダー的な存在となっていくことが期待されるので、様々な計画や事業を行うときに協力してもらうことも必要

である。

7 全体評価

プロジェクト構成事業については、計画を一部変更したものの概ね実施に移すことができ、全国規模の大会やスキー合宿等の誘致、施設の整備など、雪を地域資源として活用できる親雪、利雪、克雪の取組を一体的に推進することにより、地域活性化を図ることができたと考える。特に、秋田県では初めてとなる全日本スキー選手権大会（スノーボード競技）の開催については、本プロジェクトの大きな成果と捉えることができる。

一方で、成果指標の達成状況については、3項目とも達成に至らなかった。アドバイザーからは、「豪雪地帯での雪を使った取組に関しては、可能性は非常に高く、良い視点である。本プロジェクト終了後も、安心することなく邁進してもらいたい。」と評価をいただいております、様々な事例等も参考にしながら、引き続き指標達成に向けた取組を進めていく。

8 今後の推進方針

民間アドバイザーの意見や全体評価を踏まえ、次のとおり推進するものとする。

（1）ジュネス栗駒スキー場のターゲット等について

全日本スキー選手権大会 SBX 種目の継続開催に加え、今年度からは同選手権大会 PGS 種目も開催することで準備を進めている。全国規模の大会開催により、ジュネス栗駒スキー場の認知度の向上と来場者の増加につなげていく。

キッズパークについては、子どもの安全に配慮し、コースの一部を専用エリアとして定期開設し、新たなアイテムの追加等も検討していく。

（2）誘客促進のための PR、売り込みについて

SBX・PGS 種目ともに平昌冬季オリンピックで実施される種目であり、注目度が高まることが予想される。オリンピック後の全日本選手権大会となることから、競技関係者等と連携を図り、トップアスリートの大会参加を勧めていきたい。

また、ゲレンデの一部に SBX 常設コースを設置することで、一般客が気軽にコースを体験できるほか、スノーボード合宿の誘致も進めていく。

（3）住民の巻き込みと理解促進について

各種大会やイベント等開催に当たっては、村内宿泊施設の利用を促していくとともに、宿泊施設側についても、各種大会等の周知と受入環境の整備を進めていく。

地元選手の育成を図るため、ジュニア世代等を対象とした体験イベントの実施や組織づくり等を検討する。

（４）雪貯蔵・冷蔵施設、雪室施設の今後について

雪室を整備したことにより、トマト等の野菜やリンゴ等の果物といった生の食材を余すこと無く村の特産品として加工・出荷することができるようになった。

雪冷熱の活用については、ハウス内における農作物の病害など課題も多くあることから、関係機関と協議を重ね、また他市町村の成功例を参考に調査・検証を引き続き実施し、村民にとってよりよい施設となるよう幅広く活用していく。

（５）観光について

親雪分野ではジュネス栗駒スキー場の利用客増加、利雪分野では雪冷熱を利用した新たな特産品化への取り組みを進めるため、マーケティング担当職員の配置を検討していく。

また、地元住民の理解や意識の高揚を図るため、様々なイベントや各種大会の運営などに地域の若者が関わるなど、若者が参画できる仕組みを検討する。

（６）克雪対策について

流雪溝未整備区間については継続して整備を進めるとともに、更なる除排雪体制の充実・強化を図り、住みよい生活環境づくりに努める。

除排雪ボランティアについては、関係機関と連携し、個人参加に加え、事業所単位の加入も促進するほか、引き続き、参加者への安全対策の充実を図っていく。

【プロジェクトチーム構成員】

東成瀬村	総務課、企画商工課、農林課、建設課、民生課、教育委員会
秋田県	スポーツ振興課、温暖化対策課、農林政策課、県民生活課、資源エネルギー産業課、雄勝地域振興局、地域の元気創造課（幹事課兼事務局）